

## 実施設計の基本部分が完了へ、詳細図面の作成を開始

新庁舎の実実施設計について、実施設計事業者との協力のもと、機器配置等の基本的な部分が完了し、建築確認と工事発注に必要な詳細図面の作成を開始しました。

詳細図面作成にあたっては、基本設計において決定した間取り等の大枠をもとに、設備の具体的な位置や、機器・什器の配置、内外装など、下記事項について細部の検討を行っていきます。



分野	検討内容	作成図面等
建築総合 (意匠図)	建物の基本的情報(間取り詳細、機器・什器設置場所、扉種類、窓種類、建具、内装、外装 等)	配置図、平面図、断面図、立面図、矩計図、展開図、天井伏図、平面詳細図、部分詳細図、建具表、仕上表、仕様書 等
建築構造 (構造図)	建物の構造に関する情報(鉄筋配筋、コンクリート厚み、床荷重 等)	伏図(基礎、土台、床)、軸組図、断面図、仕様書、構造計算書 等
設備 (設備図)	設備に関する情報(照明位置、電気コンセント位置、エアコン位置、水道位置、電話・LAN位置、配管位置・太さ 等)	電灯設備図、動力設備図、空調設備図、換気設備図、給水設備図、消火設備図、機器表、仕様書、設計計算書 等

## 新庁舎建築設計の詳細について②

前号に引き続き、基本計画・基本設計における6つの理念に沿って、新庁舎建築設計の詳細についてご紹介します。

理念① 災害に強い防災拠点となる庁舎

理念② 町民すべてに優しく気軽に訪れやすい庁舎

理念③ 事務効率の良い庁舎

理念④ 桑折町らしい庁舎

理念⑤ 長寿命で費用(ライフサイクルコスト)の少ない庁舎

理念⑥ 町民集いの場となる庁舎

### 新庁舎コラム 新庁舎の6つの理念②

#### 「町民すべてに優しく気軽に訪れやすい庁舎」①：窓口機能全般

新庁舎は、現庁舎の抱えている窓口の分散、ユニバーサルデザイン性の不足、狭あいさ等の問題を解消し、町民の方がより利用しやすくなるよう、各種の機能を計画しています。

庁舎1階には、町民アンケートで来庁目的とした方が多かった税務住民課や保健福祉課などを集約し、あまり移動せずに用件を済ませることができるようになります。

他にも、座って相談ができる低めのカウンターや、プライバシーが守られる相談室、エレベーター、多機能トイレ、授乳室など、町民への行政サービス提供の拠点としての機能を確保するため、以下の内容を計画しています。(裏面へつづく) (写真はイメージです)



②ローカウンター



④相談室



⑦エレベーター

1	窓口集約	来庁者の多い部門を1階に集約配置し、来庁者の移動を減らす
2	ローカウンター	低めのカウンターにより、時間の掛かる手続きや相談での来庁の方や、車いすの方も、座ったまま楽に手続き等ができる
3	ワンストップカウンター	転入の場合など、多くの課にまたがる手続きの際も、1か所のカウンターで、多くの手続きを済ませることができる
4	相談室	窓口カウンターでは話しにくい、プライバシー性の高い相談等について、別室で人目を気にせずに話ができる
5	打合せスペース	
6	広報スペース	町のパンフレットなど、行政情報や観光情報を集約的に発信する
7	エレベーター	足の不自由な方や車いすの方も、上の階へ無理なく移動できる
8	多機能トイレ	障がいのある方や高齢の方などが、困難なくトイレを利用できる
9	授乳室	子ども連れの方も、気軽に来庁し、落ち着いて相談・手続き等ができる
10	キッズスペース	



⑧多機能トイレ



⑨授乳室



⑩キッズスペース

## 新庁舎コラム 新庁舎に関する費用低減化

新庁舎建設については、基本計画・基本設計・実施設計の各段階を通して、費用の低減化に努めております。基本設計終了までに、下記のとおり費用の圧縮をはかりました。

区分	場所	主な内容	節減額
庁舎本体 (再エネ以外)	建物内部	天井の高さを低くする、複数個所の可動式部屋内間仕切りの短縮・中止、耐震工法の採用(免震工法と同等の災害対応性を確保)、セキュリティシャッターの場所・種類変更 等	約3~4億円程度
再生可能エネルギー・付属棟他	建物外部	公用車車庫の規模縮小、庁舎南側・北側のテラス(屋根付き歩道)の区間縮小・中止、太陽光発電・地中熱利用の規模縮小 等	約4~6千万円程度

現在行っている実施設計の後半には、実施設計事業者から詳細な費用試算の提示を受けることが可能となります。オリンピックや消費増税等の影響に注意を払いつつ、一層の費用低減化に向け、実施設計事業者と連携して費用詳細の更なる見直しを行って参ります。